

JA全農ウィークリー

4
5
面

TACパワーアップ大会2021を開催

(耕種総合対策部)

3面



「ミルクティー」は牛乳を50%以上使用し需要拡大に貢献(3面)



「旬鮮倶楽部」2022年度は青果物特集や「あったか冬ごはん」「父の日企画」も用意(8面)



2年ぶりの実開催となったTACパワーアップ大会(4-5面)

2 中国・上海で日本産農畜産物アピール (輸出対策部)

**「ニッポン全国物産展」で
新米・米加工品などをPR
(米穀生産集荷対策部)**

3 2年ぶりに「第32回農業機械大展示会」を開催(滋賀県本部)

6 海外拠点便り (CGBエンタープライズ(株))

7 JAズームイン(東京:JA東京むさし)

8 「旬鮮倶楽部」2022年度申込受付中
(くらし支援事業部)

「暮らしまるっとJA巡り！
～ぐるぐるスタンプラリーキャンペーン～」
実施(群馬県本部)

JAタウンショップ紹介

JA熊本果実連(熊本県)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

「つくいのお茶の湯」新発売（神奈川県本部）
インフルエンサーと「東北の魅力」を広く発信
（東北営農資材事業所）

冬に飲む「ミルクティー」発売
飲んで日本の酪農を応援（酪農部）

News!



中国・上海で日本産農畜産物アピール

「中国国際輸入博覧会」と「上海環球食品展」に出展

輸出対策部



CIEE2021 出展ブース



FHC2021 出展ブース

輸出対策部と全農（上海）貿易有限公司、JA全農インターナショナル（株）は、現地輸入者・卸業者と連携し、中国・上海で11月5～10日に開催された「第4回中国国際輸入博覧会（CIEE 2021）」と、11月9～11日に開催された「第25回上海環球食品展（FHC 2021）」に続けてブースを出展しました。

「CIEE 2021」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止で厳戒態勢の中、開催され、世界127カ国・地域から約2900社以上の企業が出展し、入場者数は48万人となりました。輸出対策部と全農（上海）貿易有限公司、JA全農インターナショナルが出展したジェトロ主催のジャパンパビリオンブースでは、日本産米や飲料・包装食品など加工品を紹介し、中国現地の最

新のマーケット情報交換や商談が行われました。

同時期に開催された「FHC 2021」は、中国最大規模の総合食品見本市として、世界15カ国・地域のパビリオンが設置され、約2800社以上の企業が出展し、8万人以上が来場しました。食品展ということもあり、より専門的なバイヤーが多数来場しました。ブースでは日本産米の試食や飲料的試飲を行い、各バ

イヤーと成約に向けた商談を行いました。今後とも中国で取り扱い可能な品目の動向を見据え、日本産品をアピールしていきます。

News!



「ニッポン全国物産展」で新米・米加工品などをPR

米消費拡大の一環「パエリア」の魅力も紹介

米穀生産集荷対策部



JA全農ブース



多くの方が来場されたJA全農ブース

米穀生産集荷対策部はJA全中と連携し、11月19～21日に池袋サンシャインシティ（東京都）で開催された「ニッポン全国物産展」に「JA全農」ブースを出展し、新米・米加工品の販売、消費拡大に向けたPRを実施しました。

178社が出展した「ニッポン全国物産展」（主催：全国商工会連合会）には、3日間で約4万5千人が来場し、大変な賑わいを見せました。

「JA全農」ブースでは、新米や、今年度発売となった農協ごはんをはじめとする米加工品などを販売しました。また、米消費拡大の一環

来場者からは、「農協牛乳は知っていたけど農協ごはんは初めて見た」、「パエリアってこんなに簡単に作れるのか」など驚きの声が聞かれました。

米穀生産集荷対策部は、国産米の消費拡大を目的に、今後ともさまざまな機会でお米の魅力を発信していきます。



消費拡大の一環で乳飲料「ミルクティー」発売

飲用向け需要が減少する冬に、飲んで日本の酪農を応援

酪農部



3900円/1ケース(24本入り)(税・送料込み、JAタウン「酪市酪座」での販売価格)

ミルクティーの
商品紹介ページ



「箱根山麓紅茶」を使用し、紅茶の爽やかな香りと、絶妙なバランスが味わえる一品に仕上がりました。ぜひこの機会にご賞味ください。

生乳生産は酪農家の努力と酪農関係者の後押しにより増産に転じましたが、需要は新型コロナウイルスの影響などで低調に推移しています。特に年末年始は、学校給食牛乳の休止や一部量販店の休業で、牛乳の需要はさらに落ち込みます。酪農部はこのような時期にミルクティーの開発・販売を行

うことで、酪農業界を取り巻く現状を発信すると共に、需要拡大に貢献したいと考えました。「酪農家が丹精込めて搾った生乳を一滴たりとも無駄にしない」そんな思いが詰まったミルクティーです。一口飲むと牛乳のコクが口いっぱいに広がります。また、茶葉には(株)神奈川農

酪農部は12月1日、牛乳を50%以上使用した「ミルクティー」を発売しました。この年末年始は例年になく生乳需給の緩和が懸念されており、消費拡大の取り組みの一環として牛乳をたっぷり使用したミルクティーを開発しました。



2年ぶりに「第32回農業機械大展示会」を開催

セルフメンテナンス研修、営農・担い手支援相談なども実施

滋賀県本部



共同購入トラクターSL33L



コロナ対策を実施しての開催となった「第32回農業機械大展示会」

今展示会は、滋賀県の系統農業機械事業の発展・拡充を目的に、県内9JAと滋賀県本部が主催しました。開催に当たっては新型コロナウイルス拡大防止策として来場者の人数制限などの取り組みが行われました。

各種新型農機、ドローンやラジコン草刈り機などのスマート農機、小物商品野菜関連商品などを展示しました。農作業安全啓発、セルフメンテナンス研修会、営農・担い手支援相談や食味測定、野外実演コーナーとして先進の自動運転技術を導入した田植機の実演をするなど、初日から多くの来場者でにぎわい、3日間約4300人の方にご来場いただきました。

滋賀県本部は、JAグループ滋賀と11月12日から3日間、長浜バイオ大学ドームで「第32回農業機械大展示会」を開催しました。

2021を開催

対応の取り組みを全国で共有



JAグループ

TACパワーアップ大会 2021



JA Zenroh Weekly

特集

全農は11月17～18日、新横浜プリンスホテルで「TACパワーアップ大会2021」を開催し、全国から地域農業の担い手に出向くJA担当者（愛称TAC）やJA役員、担い手など約200人が参加しました。

【耕種総合対策部】

今大会は、「担い手の構造変化に対応できる出向く活動体制の強化」、「多様なニーズに対応した労働力支援・事業承継・スマート農業の取り組み加速」、「コロナ禍における創意工夫あるTAC活動の実践」をテーマに活動表彰や取り組み事例発表、分科会などを行いました。

また、「県域サテライト企画」と題して、ウェブ会議システムZoomで視聴している25県域237人と本会場をつなぎ、各県域に設置したサテライト会場から日頃のTAC活動の取り組みや全国のTACに向けたメッセージをいただきました。

表彰式では、全農会長賞のJA筑前あさくらをはじめとするJA表彰4JA、JA特別表彰1JA、TAC表彰6人、TAC特別表彰2人の計13のJA・TACが表彰されました。また、

過去の大会で全国表彰を3回以上受賞し、TACの活動を高いレベルで継続しているJAおちいまばりにTACトップランナーズJA表彰が授与されました。

取り組み事例発表では、生産振興や労働力支援、法人化支援、農家手取り最大化の実践、新技術や省力・低コスト資材の導入提案など、幅広い担い手ニーズに対応した取り組みが受賞者から紹介されました。

基調講演では「東大卒、農家の右腕になる。」の書籍でも著名なファームサイド(株)代表取締役の佐川友彦氏に登壇いただきました。業務の大きな転換がしづらい農業の現場において、「行動するリスクよりも行動しない機会損失が大きい」、「小さな業務改善をしていくことが大切」などご自身が行った阿部梨園での業務改善の経験をも

TACパワーアップ大会

2年ぶりの実開催。コロナに負けない担い手



- 1 集合写真
- 2 基調講演をするファームサイド(株)佐川代表
- 3 県域サテライト企画の様子
- 4 取り組み事例を紹介するJAおちいまばり森部長
- 5 菅野会長から表彰状を受け取るJA筑前あさくら星野常務
- 6 分科会で活発に議論する参加者

TACパワーアップ大会2021受賞者一覧

TACTップランナーズJA表彰

愛媛県 越智今治農業協同組合

JA表彰

福岡県 筑前あさくら農業協同組合 【全農会長賞】

石川県 松任市農業協同組合

兵庫県 たじま農業協同組合

熊本県 阿蘇農業協同組合

TAC表彰

岩手県 岩手中央農業協同組合 玉山 正彦 氏

岩手県 花巻農業協同組合 高橋 望 氏

石川県 金沢市農業協同組合 押田 哲男 氏

島根県 島根県農業協同組合 原 紀行 氏

島根県 島根県農業協同組合 前田 晃弘 氏

岡山県 晴れの国岡山農業協同組合 森 弘光 氏

JA特別表彰(出向く活動強化運動部門)

秋田県 こまち農業協同組合

TAC特別表彰(努力・共感部門)

埼玉県 埼玉ひびきの農業協同組合 野平 巧 氏

佐賀県 佐賀県農業協同組合 久保喜久男 氏

大会宣言

我々TACは、

- 一、JAグループの力を結集し、担い手に出向き寄り添いともに歩みます。
- 一、変革する「今」を的確に捉え、担い手の営農を支援します。
- 一、地域に根ざすTACとして、担い手とともに新たな農業の形を創造します。

とに講演いただきました。
分科会では「未利用・低利用担い手へのアプローチ」、「事業承継」、「農業労働力支援」、「スマート農業」、「農家手取り最大化」の5つのテーマについて、実際に担い手へ提案することを想定した熱心な議論が展開され

ました。
全農では今後もTAC活動の原点である「担い手との信頼関係を築き上げていく」を念頭に、TACと担い手が二人三脚で地域農業を守り、発展させていけるような取り組みを支援していきます。

米国中西部を中心に穀物集荷 全農グループの強固な穀物供給体制を支える



CGB 穀物集荷施設
(フロリダ州ネイブルズ)



120 カ所の穀物集荷施設の拠点図（赤い点）。
1500 人の従業員は各地で活躍しています

CGB 社は 1969 年に設立、1988 年に JA 全農グループと伊藤忠グループによって共同で買収され、CGB エンタープライズとなりました。現在の従業員数は約 1500 人です。主な事業は穀物集荷で、米国中西部を中心に 120 基を超える穀物集荷施設を運営しています。本社はルイジアナ州ニューオーリンズ近郊で、全農グループと同じ事務所に入っていますが、活動の現場は米国中西部と言えます。生産者からトウモロコシや大豆を買い付け、その多くをミシシッピ川などの河川に「はしけ」積みを行い、ニューオーリンズの全農クレインに出荷しています。他に、大豆搾油、はしけ輸送、港湾物流などの事業も営んでいます。

また、生協など、消費者のニーズを踏まえ、非遺伝子組み換えのトウモロコシの集荷にも取り組んでいます。約 2000 戸の穀物生産者産（プレミアム・グレイン・グロアーズ）と契約し、非遺伝子組み換えのトウモロコシを集荷、分別管理（IP ハンドリング）する物流を行っています。種子会社と長期契約を行い、非遺伝子組み換えトウモロコシの種子の確保にも取り組んでいます。

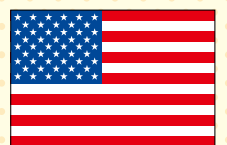
コロナ禍においても、米国では食料穀物に関する事業は必要不可欠な事業と位置付けられており、感染対策を取りながら業務を継続遂行してきました。米国農業の供給力の強さを改めて実感しています。生産者とのコミュニケーションも、携帯電話・メールを活用し、多様化しました。

穀物の安定供給においては、穀物輸出するエレベーターも重要ですが、その集荷基盤を確保することも大切です。CGB では生産者との関係をしっかりと構築し、全農グループの強固な穀物供給体制を支えるべく、日々奮闘しています。

魅力的な現地食

ルイジアナ州には多彩な食文化があります。米国の他の地域に比べて、オイスター、ナマズなど、魚介類を食す機会も多いのですが、地域独自のものとしてザリガニがあります。ルイジアナ州ではザリガニの養殖が盛んで、1～6月にシーズンを迎えます。会社では毎年ザリガニパーティーを催しています。

スパイシーな味付けになっています





新鮮な地場産農産物が並ぶファーマーズ・マーケット「ムーちゃん広場」

FARMER'S MARKET



「ムーちゃん広場」のロゴマーク



学校給食用の農産物を納品する生産者(左)と受け取るJA職員

J A東京むさしは東京都のほぼ中央に位置し、武蔵野市・三鷹市・小金井市・小平市・国分寺市の5市をエリアとしています。管内の人口は約78万人。大きなマンシヨンの隣に畑、という光景も珍しくありません。地域

農産物販売所や学給で地元野菜を提供

農業への理解を深めてもらうため、さまざまな取り組みを行っています。

市民に新鮮で安全安心な地場産農産物を提供するため、5市にファーマーズ・マーケット「ムーちゃん広場」を設置し、年中無休で営業しています。2021年6月にはJR三鷹駅前に

農産物販売所「ボン・マルシェ・プラス」もオープン。夜7時までの営業で、日に直売所を利用できない客層にも好評です。各市で学校給食への地場産農産物の供給にも取り組んでおり、小平市の20年度の地場産導入率は30・1%。生産者にとっても重要な販路となっています。

21年7～10月には、地場産果物が抽選で当たる懸賞



地場産果物を抽選でプレゼントした「むさしの恵み定期貯金」

准組合員とのつながりも強化

准組合員向け広報誌「かわせみ通信」の発行や直売所運営審議会への准組合員の参加など、准組合員との

品付きの定期貯金を発売しました。信用事業を通じて都市農業をPRするとともに、農業者の所得増大につながることを目的です。第1弾は小平市産の梨を、第2弾は三鷹市産のキウイフルーツを抽選でプレゼントしました。



決定した准組合員の愛称を紹介する役職員

これからの各事業の充実を図り、「農」を基にしたまちづくりの実現と都市農業の発展に取り組んでいきます。

つながりを強化しています。20年度には准組合員の愛称を「東京むさし JAパートナー」と決めました。愛称は自らも准組合員である職員から募集。地域農業振興の応援団として、これまで以上に親しみと関心を持ってJAに関わってもらいたい、との思いを込めました。



「あなたのとなりが産地です」 都市農業における地産地消の推進

J A東京むさし
(東京都)



概要

令和3年3月31日現在

正組合員数	3071人
准組合員数	2万5316人
職員数	479人
販売品取扱高	9億2千万円
購買品取扱高	7億4千万円
貯金残高	4967億3千万円
長期共済保有高	7353億2千万円
主な農産物	野菜、果物、花き、植木、卵

「旬鮮倶楽部」2022年度申込受付中

青果物特集や「あったか冬ごはん」企画、
「父の日企画」も用意

くらし支援事業部は、北海道から沖縄まで全国各地の旬の果実を中心に、毎月、産地直送でお届けする頒布会事業「旬鮮倶楽部」に取り組んでいます。【くらし支援事業部】

2022年度は、青果物特集や、冬に食べたい温まる商品を集めた「あったか冬ごはん」企画をご用意しています。新設した「父の日企画」やクリスマス、お中元といった歳時企画もあり、配達場所も複数指定できますので、贈答用としてもご利用いただけます。

ご家族だんらのひとときや、大切な人を思い商品選びを楽しめることも本カタログの魅力です。遠出や旅行に制限がかかる昨今、全国の旬をご家庭で楽しんでみてはいかがでしょうか。ぜひ、この機会にお試しください。



2022年度企画(4月からお届け)のご注文は、2022年1月末まで全国の各JA窓口で受け付けています。

※一部お取り扱いのないJAもございます。

旬鮮倶楽部のお問い合わせは各県の全農生活担当部署までお願いします。

「暮らしまるとJA巡り!~ぐるぐるスタンプラリーキャンペーン~」実施

群馬県本部は、JA総合事業における生活関連事業(農産物直売所・JA-SS(ガソリンスタンド)・クミアイプロパン)の相互利用の活性化・認知度向上を目的として、2022年1月末まで携帯端末を活用したWebスタンプラリーを実施しています。

【群馬県本部】

期間中、キャンペーン参加のJA-SS、JA農産物直売所に掲載しているポスターのQRコードをスマートフォンなどで読み取り、発行されるスタンプを10個集めるとWeb上から応募できます。抽選で群馬県産「レンジアップごはん利根きり」や「野菜ボックス」(JA佐波伊勢崎直売所からか〜ぜ)などが当たります。

暮らしまるとJA巡り!

ぐるぐるスタンプラリー

スマホで

2021 12/1 水曜日

2022 1/31 月曜日

JA-SS冬の感謝祭と同時開催!!

JA直売所・JA-SS店舗来店時に店舗掲載ポスター等に記載のQRコードを読み取り、スタンプを10個集めて、応募フォームより応募により抽選で県産農産物をプレゼント!さらに応募時にクミアイプロパン換気券添付で賞品が豪華にジャンプアップ!

スタンプラリー賞

群馬県産 レンジアップごはん 利根きり(6割) 80名様

クミアイプロパン ジャンプアップ賞 20名様

野菜ボックス JA佐波伊勢崎からか〜ぜ

詳細はQRコードを読み取り下さい

お問い合わせ **JA全農ぐんま 管理部 企画経理課** TEL.027-220-2211 (受付時間 9:00~17:30(土日祝日を除く))

JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

JA熊本果実連

「ポンカン」は、甘味が強く酸味は控えめ、果肉がやわらかく果汁たっぷりの柑橘です。ポンカン独特の甘い香りも魅力です。果皮は手で簡単にむくことができ、少し種があるものの、じょうのう(薄皮)が薄く袋ごと食べられます。

寒さに弱いポンカンは、太陽光がたくさん降り注ぐ熊本の温暖な気候の下で栽培されています。園地は海岸から近い場所が多く、海からの反射光と潮風で運ばれるミネラルを浴びて品質の良いポンカンが育ちます。



熊本県産 柑橘 ポンカン
【約4.5Kg L/Mサイズ35~45個入】……4500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。